

厚生労働科学研究委託費（長寿科学研究開発事業）

委託業務成果報告（業務項目）

業務項目名：

地域診断と見える化ツールを活用した介護予防施策マネジメント・パッケージの開発

d. 介護予防事業計画の立案までのマネジメント・プロセス開発

d-11. 南城市・栄養改善介入

食育介入と行政(教育)機関へのアプローチの方法論的検討：沖縄県南城市・周辺地区

担当責任者 等々力英美 琉球大学大学院 准教授

研究協力者 白井こころ 琉球大学法文学部 准教授

研究要旨

【背景と目的】地域における高齢者の介護予防の一つとして食事による行動変容が重要であるが、従来の方法では持続性の面などからみて十分ではなかった。

「食育」を学んだ児童(孫)からの「ことば」による働きかけの効果を明らかにする。特に、野菜摂取量の増加と減塩を目指す。

【方法】先行地区の事例を基に、地域特有の状況に合わせたアプローチを行った。

【結果】食事介入のためのコンテンツとして、食育授業の授業計画、教材作成をおこなった。

【結論】高齢者(祖父母)への介護予防の継続と地域への認知の実現のためには、「食育」は有効な手段となる可能性がある。

A. 研究目的

< 背景 >

これまでの地域の高齢者への介護予防のための介入は、対象者へ直接働きかける方法が多く、効果の持続性と広汎性に課題があった。家庭・地域の絆を生かした形で、児童(孫)から、祖父母(父母)への働きかけによる介入は効果的かもしれない。

< 目的 >

本研究は、食事介入を主として、児童の属する小学校の食育授業や、学校給食と連携させて、祖父母・父母への食事行動の変容を目指し、その入方法について検討を行う。その準備段階として、JAGES参加の南城市および

周辺市町村における学校および行政(教育委員会)担当者へのアプローチや、地域企業との連携とサポート(ソーシャルマーケティング)に導くための方法論的検討を行う。最終的には、対象者の食事摂取の行動変容(野菜摂取の増加と、減塩)を目指す。

B. 研究方法

南城市は、2006年1月1日に、1町3村が合併して誕生した市である。人口は42,338人(2015年2月末日現在)で、沖縄県内で最小の市である。面積は49.76km²で、県内12位である。

現在、先行地区である周辺市町村の介入方法を基にして地域特有の状況に合わせたアプ

ローチを検討している。沖縄の南部地区は、3世代の同居率または、近傍居住率が高く、ソーシャル・キャピタルが良好であることが示唆されている。

介入方法として、1)食育介入のための食育授業スキルとノウハウの提供。2)市町村に負担がかからない児童の食事摂取状況調査や、家庭への栄養・食事情報や知識コンテンツ提供、3)学校給食センターへの、減塩・野菜摂取の推進のためのスキルの提供(沖縄伝統野菜と減塩を取り入れたチャンプルースタディ・レシピなど)、教育委員会・学校側のためのbenefitがある内容とする。

(倫理面の配慮)

本研究は、琉球大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得た。

C. 研究結果

現在、食事介入のためのコンテンツとして、食育授業の授業計画、教材作成を、進行させている。また、学校給食の内容として、チャンプルースタディ・レシピの拡充と、学校栄養士との情報共有を図っている。レシピは、保護者と行政の賛同が得られやすい、地元産の野菜を多用した内容となっている。これは、結果的に地元産野菜の摂取と消費促進を、働きかけることになり、地域の野菜生産者と、野菜流通業者と商工会からのバックアップが得られている(ソーシャル・マーケティングによる併用介入)。

D. 考察

従来の健康増進の方法論は、直接、被験者への働きかけによる内容が主流であったが、児童への「食育」を入り口として、児童の「ことば」による働きかけが父母、祖母父への行動変容につながる可能性がある。また、学校

給食や食育授業のように、既存の資源とシステムを活用することで、大きな組織改良をしなくても集団全体への働きかけが可能になる。子供の健康改善(沖縄では、肥満・野菜摂取不足・塩分過剰が課題となっている)を図るために、家庭・地域の連携が重要であることは、多くの祖父母、父母に理解されやすい。これらの「しかけ」を円滑にするためには、行政と保護者のバックアップが必要である。

E. 結論

高齢者(祖父母)への介護予防の継続と地域への認知の実現のためには、「食育」は有効な手段となる可能性がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

Yamada M, Asakura K, Sasaki S, Hirota N, Notsu A, Todoriki H, Miura A, Fukui M, Date C. Estimation of intakes of copper, zinc, and manganese in Japanese adults using 16-day semi-weighed diet records. *Asia Pac J Clin Nutr*. 2014;23(3):465-72.

書籍：

等々力英美 第8章 戦後沖縄における食事・栄養と食環境の変遷 藤田陽子、渡久地健、かりまたしげひさ編 島嶼地域の新たな展望 2014 九州大学出版会

2. 学会発表

.Todoriki H, Social Capital and Nutrition/Health Transition in Postwar Okinawa.

EWC/EWCA Okinawa International Conference “Social Capital and Well-being in Okinawa and Japan from the Perspectives of the Life Course - Session 1” 2014 Okinawa.

等々力英美、朝倉敬子、佐々木敏、金城昇 高

倉実「八重瀬町食育スタディ」の概要と研究
デザイン 食育授業と学校給食と連携した
学校割り付け介入研究 第46回沖縄県公衆
衛生大会 2014.10.28 (那覇市)

等々力英美 沖縄の伝統的食事によって長寿
再生は可能か チャンプルースタディー
から考える 第8回日本禁煙学会学術総会
供世代 2014.11.15 (宜野湾市)

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし